

カキ生育情報

千葉県
平成27年7月号

平成27年6月の気象

平成27年6月の半旬別の気象を表1に記した。平均気温は第2と第4半旬では平年より低く、それ以外の半旬では平年より高かった。月平均気温は20.4℃で、平年より0.4℃、前年より0.8℃低かった。

降水量は第1と第2半旬では平年より多く、第3半旬以降は平年より少なかった。月合計は229mmで、平年の91%、前年の69%であった。

日照時間は第1と第5半旬では平年より長く、それ以外の半旬では平年を下回った。月合計は134時間で平年並、前年の84%であった。

梅雨入りは6月8日頃とされ、これは平年と同じで、昨年よりは3日遅い。

表1 平成27年6月の気象（暖地園芸研究所）

半旬	平均気温(℃)			降水量(mm)			日照時間(hr)		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
1	20.2	19.7	20.5	87	25	26	32	28	37
2	18.9	20.0	20.2	95	37	220	19	25	8
3	20.8	20.3	21.6	24	47	58	12	23	39
4	19.9	21.3	21.2	12	47	8	20	21	38
5	21.5	21.3	21.7	2	51	9	34	19	21
6	22.4	22.2	22.8	11	43	13	17	19	16
平均/計	20.4	20.8	21.2	229	251	334	134	135	159

樹及び果実の生育

6月末から7月初旬のカキの果径は表2に示した。横径は「西村早生」と「松本早生富有」が2地区の平均でみるとそれぞれ3.89cm、4.28cm、「富有」が4.07cmであった。本年の横径は平年に比べ、「西村早生」は14%、「松本早生富有」は16%、「富有」は19%、それぞれ大きかった。

縦径は「西村早生」と「松本早生富有」が2地区の平均でみるとそれぞれ2.98、3.04cm、「富有」が3.06cmであった。本年の縦径は平年に比べ、「西村早生」は10%、「松本早生富有」は9%、「富有」は11%、それぞれ大きかった。

果形指数は「西村早生」と「松本早生富有」が2地区の平均でみるとそれぞれ1.31、1.41、「富有」が1.33であった。本年の果形指数は3品種ともに平年より大きく、横長の傾向であった。

本年の果実の発育は3品種ともに平年よりやや進んでいる。着果量は3品種ともに平年並みまたはやや少ない。生理落果については、各調査地のいずれの品種とも平年より少ない。うどんこ病が若干発生している調査地がある。

表2 果実の生育（いすみ市と市原市は6月30日、暖地園研は7月7日の果径）

品 種	調 査 地	横 径 (cm)			縦 径 (cm)			果形指数		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
西村早生	いすみ市	3.63	3.36	3.60	2.78	2.70	2.80	1.31	1.24	1.29
	暖地園研	4.15	3.41	3.14	3.17	2.67	2.61	1.31	1.28	1.20
	平 均	3.89	3.41	3.37	2.98	2.71	2.71	1.31	1.26	1.24
松本早生 富有	市原市	4.13	3.80	4.15	2.86	2.74	2.88	1.44	1.39	1.44
	暖地園研	4.43	3.53	3.45	3.22	2.81	2.85	1.38	1.25	1.21
	平 均	4.28	3.69	3.80	3.04	2.78	2.87	1.41	1.33	1.33
富有	暖地園研	4.07	3.43	3.12	3.06	2.76	2.67	1.33	1.24	1.17

果形指数：横径／縦径

平年：暖地園研は1990年～2014年の平均、いすみ市、市原市は1998年～2014年の平均

7～8月の作業

摘 果

「西村早生」では、果頂部が凹んでいる果実あるいは部分的な生育不良により不整形になった果実は、渋果の恐れがあるので摘果する。なお、8月中旬頃と収穫前の9月にも、渋果を樹上選別するための摘果を行うので、7月の時点では目標着果数(10a当たり12,000果)より2割程度多め(10a当たり14,000～15,000果)に果実を残しておく。

なお、いずれの品種も目標着果数を下回る場合は、樹勢のバランスを保ち隔年結果を助長しないようにするため、病虫害被害果の除去など必要最小限の摘果にとどめる。

枝管理

不定芽(陰芽)が発生する場合は、枝葉が込まないように芽かき、摘心を行う。また、枝葉が込み合っているところや葉が傷んでいる場合も、病害の発生を抑え、枝の充実を図るため、枝や葉を間引きして風通しを良くする。特に、炭疽病の発生した軟弱な枝は必ず摘除する。なお、2次伸長枝はこの時期は放任する。

枝葉が少ない場合は徒長枝等もせん除せずに、ねん枝や誘引によって葉数確保に努める。

病虫害防除

7月から9月上旬は、炭疽病、落葉病、うどんこ病とカキノヘタムシガの防除時期である。ただし、「西村早生」などの極早生品種では、安全使用基準に留意するとともに、使用する薬剤によっては薬害が生じるので十分注意する。

カキノヘタムシガの2回目の幼虫の食害が始まるため、8月中旬に防除を行う。なお、カメムシ類の発生が多い場合は、8～9月が防除適期となる。

防除に際しては、千葉県農作物病虫害雑草防除指針を参考に行う。

なお、表の数値は、表示単位未満を四捨五入したため、合計値と内訳の計が一致しない場合があります。

《 生育情報の問合せ先 》

千葉県農林総合研究センター 暖地園芸研究所 特産果樹研究室 電話 0470-22-2961

※果樹の生育情報は「ちばの農林水産業」の「生育情報」でも御覧いただけます。

<http://www.pref.chiba.lg.jp/seisan/seiiku/index.html>